



観光施設の国際化支援補助金活用 アイデア集



補助対象事業 - 1 混雑回避等の取組

感染症対策を目的とした混雑回避等の取組を支援します！

●混雑回避等の取組とは

感染症対策※1とそれを目的としたデジタル技術を活用した鑑賞・体験・展示方法の取組を指します。

※1: 新型コロナウイルスへの対策を指します。

●補助対象事業例

- ・時間指定チケットの事前予約システムの導入
- ・混雑状況の表示システムの導入
- ・入場ゲートの無人化
- ・GPS等を活用した密を避ける鑑賞方法
- ・抗ウイルス剤のコーティング施工
- ・自動消毒噴射機や自動検温器などの感染拡大防止策

※省人化・生産性向上のみを目的とした取組は対象外です。

※取組は「新たに」実施するものに限りです。



感染対策を目的としないデジタル技術の活用は「4. 情報通信技術の活用 (4) デジタルを活用した新たな鑑賞・体験・展示方法の導入」の事業でご申請ください。

<対象事業例>

- ・公開を前提とした収蔵品のデジタルアーカイブ化
- ・映像(プロジェクションマッピング、アバターなど)やVR・AR・GPSなど先端デジタル技術を活用した鑑賞方法

1 - 事例 1

オンライン予約制・非接触入場システムの導入

来場者がオンラインで事前に入場時間を指定してチケットを予約購入できるシステム。当日は、来場者自身の携帯端末等に表示されたQRコードを入口で読み取らせることで入場が可能。

チケットはオンラインで販売。
日時指定をすることで、館内の混雑を解消

来場する日にちと時間を指定し、販売するチケットの枚数を管理できるため、入場定員をコントロールすることが可能です。

来場者がオンラインで事前にチケットを購入することで、売り場での混雑や、現金の受け渡しが回避できます。

QRコードによる入場で、
非接触およびチケットレス化

入場は、スマートフォンなどに送付されるQRコードのスキャンで行うため、スタッフと来場者の接触を回避できます。また、来場者の入場までの待ち時間の緩和にもつながり、快適な鑑賞環境を提供することができます。

※補助対象となるには、システムが外国語に対応している必要があります。



1
オンラインで
チケットを
購入



2
スマートフォンに
QRコードが
届く



3
入口で
スマートフォン画面の
QRコードをかざし入場

1 - 事例 2

混雑状況も把握できる多言語展示解説支援システムの導入

館内専用Wi-Fiに接続し、展示解説や館内施設の混雑状況などを自分のモバイル端末で閲覧できるシステム。感染拡大の予防策として効果的で、日本語、英語、中国語、韓国語に対応。

導入に至ったきっかけ

外国人を含む多様な入館者へのサービス向上に資するため。

概算費用

およそ1,500万円(システム開発費として)

導入スケジュール

2019年4月 導入システムの内容の検討
2019年10月 業者決定。システム開発開始
2020年3月下旬 システム完成
2020年3月 緊急事態宣言発令により施設休館
※当初4月からとしていた運用開始時期を延期
2020年8月 運用開始

具体的な準備内容

展示解説の内容や混雑情報の表示方法などを検討した。

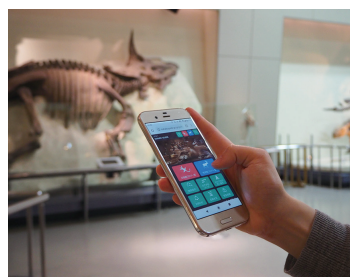


効果

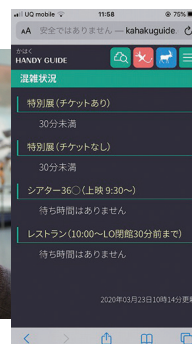
混雑状況が確認できることにより、来場者が館内で行動計画を立てる上での情報が増え、待ち時間等の回避につながった。

また展示解説については、自身のモバイル端末を使う点から、一ヶ所に集まることなく安全かつ簡単に展示解説や館内案内を見ることができるといった効果が得られた。

新型コロナウイルス感染拡大により、館内各所に設置しているタッチパネルの情報端末や、タブレット端末による音声ガイド等の貸出を休止していたが、これらを補う役割を果たしている。



モバイル端末使用例



混雑状況確認画面サンプル

1 - 事例 3

館内の無光触媒抗菌コーティング施工

24時間抗菌・抗ウイルス※1などの高い効果を発揮する無光触媒を、館内に噴霧コーティング施工。

導入に至ったきっかけ

館内は体験展示が多く、来館者が触る部分が多いため。

概算費用

およそ50万円

導入スケジュール

2020年3月～ 緊急事態宣言発令により施設休館
2021年3月 施工業者による説明会を実施
2021年3月下旬 施工開始、完了
2021年4月 再開館
ATP拭き取り検査器を導入し、定期的に効果測定を実施

具体的な準備内容

施設側は特になし。

効果

きちんと抗菌、抗ウイルス対策を施すことでお客様にも安心してご来場いただけるという、精神的な安心が生まれた。



無光触媒コーティング施工の様子。

※1：新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)の不活性化が確認できるものに限る(専門機関によるエビデンスが必要)。

補助対象事業 - 2 安全・安心の確保



多様な外国人旅行者を安全・安心にお迎えする取組を支援します！

●安全・安心の確保とは

旅行中の災害や事故、病気など不慮の事態に備え、迅速かつ適切に対応できるよう、関係機関との連絡体制や情報提供の方法など、日頃から想定を行い、十分な準備を進める必要があります。障害を持つ外国人旅行者や高齢の外国人旅行者のニーズにも対応できるよう、ユニバーサルデザインの考え方に立った取組を指します。

●対象事業

- (1) 敷地内(建物の一部の場合には施設内)のバリアフリー化
- (2) 地震や風水害等の自然災害に対する取組

●補助対象事業例

- ・緊急時の館内放送設備や災害対応用の館内サインの多言語化
- ・外国人旅行者向け災害対応リーフレットの作成
- ・防災マップの多言語化
- ・避難誘導訓練の実施
- ・拡声器、情報伝達用のサインボードやデジタルサイネージの導入

- (3) 高齢者、障害者等が快適に鑑賞できる環境整備

※取組は「新たに」実施するものに限り、※法律等で義務化されているものを除きます。



2 - 事例 1 車いす用昇降リフトの導入

館内出入口に設置していた車いす用昇降リフトの老朽化にともない、バリアフリー化基準にあったリフトへの交換工事。

導入に至ったきっかけ

旧式のリフトの不調が目立つようになったため。

概算費用

およそ100万円

導入スケジュール

2020年12月	リフト不調の状態を察知し、交換を検討
2021年1月～2月	補助金申請準備 相見積をとって業者を選定
2021年3月	業者へ施工を発注
2021年4月	リフト交換工事
2021年7月	業者による建築確認を実施 費用の支払い

具体的な準備内容

複数業者への相見積。補助金申請のため、建築図面から該当箇所の図面を起こすなどの準備。

効果

基準^{*1}に適合したリフトを導入することで、より安全にご利用いただくことができます。

※1：東京都福祉のまちづくり条例施設設備
マニュアル



基準^{*1}に適合した昇降リフト。

2 - 事例 2

災害時に携帯電話の充電が可能な、ポータブル蓄電池を導入

非常時に来館者が携帯電話を充電するなどの用途として、持ち運び可能な蓄電池を導入。

導入に至ったきっかけ

公衆電話の設置数の減少に伴い、個人の所有する携帯電話を災害時の連絡手段として利用することが主流になっていると感じ、さらなる防災体制整備が必要であると考えたため。

概算費用

無回答

導入スケジュール

2018年 災害時対策強化のため、導入を検討し納品

具体的な準備内容

特になし

効果

災害時の備えがある、という安心感が得られた。

その他

定期的な充電サイクルの確立。大型蓄電池に関しては、多少、職員の取扱研修を要すること。



2 - 事例 3

必要な情報を明確に伝えるためのピクトグラムの導入

多様な来場者にとって、必要な設備が一目で理解できるよう、ピクトグラムを効果的に取り入れたサイン体系の見直し。

導入に至ったきっかけ

市のマスタープラン等において、ユニバーサルデザインをまちづくりの柱としたため。

概算費用

不明

導入スケジュール

2011年4月 施設リニューアルに伴い、
ユニバーサルデザインの導入を検討
2013年8月 サイン計画を担当する事業者の選定
2013年10月下旬 リニューアルオープン

具体的な準備内容

先行してワークショップやシンポジウムを開催。その成果を取り入れ、博物館ブランディングの一環として、博物館をより利用しやすくする新しいサイン計画を実施。それとともに、ピクトグラム導入やフロアガイドを作成した。

効果

階段が大変な人がエレベーターの位置を、小さい子連れの人が授乳室の存在を、体調を崩した人が救護室の用意があることを直感的に理解してもらうことができるようになった。



ピクトグラムの導入については、こちらをご参考にしてください。

※補助対象となるには、外国語の表記が必要です。

「国内外旅行者のためのわかりやすい
案内サイン標準化指針」

<https://www.sangyo-rodo.metro.tokyo.lg.jp/tourism/signs/>



Tokyo Convention & Visitors Bureau

本資料に掲載の事例について、個別の施設へのお問い合わせはご遠慮ください。

お問い合わせ先：公益財団法人 東京観光財団 観光産業振興部 観光インフラ整備課

電話：03-5579-8463

